

「阿権小学校の竹踊り伝承活動の取組」

1 学校名

伊仙町立阿権小学校

2 学年・人数

2年生から6年生（18人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成29年9月5日（火） 体育の時間：寿会による指導（本校体育館）

平成29年9月19日（火） 体育タイム（朝の活動）（本校体育館）

平成29年11月10日（金） スポーツ少年団の活動（本校体育館）

(2) 発表の日時・場所

平成29年9月24日（日） 秋季大運動会（本校校庭）

平成29年11月11日（土） 犬田布中学校創立70周年記念式典（犬田布中学校体育館）

4 活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

竹踊り

(2) 由来

竹踊りは、平竿（ひらそう）に住んでいた大島本島の人が唄と踊りをつくり、昭和11年11月の犬田布小学校の「奉安殿」（ほうあんてえ）の落成式の時、阿権の青年が踊ったと言われている。それからずっと阿権で踊り継がれている。日々の喜びを明るく表現し、唄いながら踊る踊りである。本校においては、いつからかは明確ではないものの、少なくとも40年以上前から運動会の種目として、児童・校区民が一緒に大きな輪になって踊り、運動会を盛り上げている。校区の方々も楽しみにしている種目となっている。

(3) 構成等

長さ約40cmの竹の棒を2本持って、歌に合わせて棒を叩き、軽やかな音を響かせながら、みんなで輪になって踊る踊りである。体の前で手首を返して、竹をバトンのように動かしたり、2本の棒をクロスさせたりする。毎年踊っているのも、小学生でも中学年にもなると曲がかかると自然に竹を動かすことができる。子どもからお年寄りまでみんなで踊ることができる、そして、校区の方々にも親しまれ、大切にされている踊りである。

5 保存会や地域との連携の具体

9月に入るとすぐに、寿会の方々に学校に来ていただき、竹踊りの指導をしていただいている。婦人会の方も合わせると、例年15人～20人ほどが来てくださるので、低学年生や転校生、新任職員などには一人一人に講師がついて、竹の動かし方やリズムの取り方を丁寧に指導してくださる。学校で設定した練習日以外でも、低学年生は家で保護者に教えてもらったり、転入生は、5・6年生に教えてもらったりしながら、運動会本番に向けて練習に励む姿が見受けられる。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

校区の放送を通じて運動会を広報し、多くの校区の方々に運動会に参加をしていただいた。竹踊りの種目は、阿権小学校では恒例の種目であり、児童・中高生・保護者・婦人会・寿会・青年団の方々が積極的に参加してくださった。校庭中に乾いた竹を打つ高い音が鳴り響き、会場を一体化していく。子どもたちにこの経験を積ませることが竹踊りを伝承していく上で大切なことだと考えている。

7 取組の様子



【寿会による指導の様子】



【運動会当日の様子】



【運動会当日の様子】



【犬田布中学校記念式典での様子】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【参加児童】

初めは難しいと思ったが、何度も教えてもらって踊っているうちに、踊れるようになり、うれしかった。みんなで踊れるので、とても楽しかった。

【教職員】

教えてくださる方が大勢いることがありがたい。子どもからお年寄りまで、みんなで踊ることが素晴らしいと思った。踊っていると、校区全体の一体感を感じることができる。今後も、ずっと子どもたちに受け継いで欲しい。

【寿会】

子どもたちが意欲的に練習し、楽しんで踊っている姿が見られることや一緒に踊ることが大変うれしい。今後も阿権の伝統としてしっかりと伝承していきたい。